

## 第2回 アドバンスステージ研修

令和6年10月21日(月)

講演 「保育動画を用いた対話による子どもの思いと学びの理解」

講師 奈良教育大学 教授 廣瀬 聡弥氏

### 1. 講演

(幼児教育アドバイザーの話し合いの中で…)

- ・子どもの活動について、おもしろいと思えることが重要。
- ・子どもの活動をどのような視点で捉えるのか。
- ・さらに、学びを深めたり広げたりするためには、どのようにしたらよいのか。

※「保育者の質」「エキスパートになるためには」については、第1回目のホームページを参照。

#### ○言葉かけや援助

「先生、これ、どうしたらいい？」  
⇒保育者は、無限にある選択肢の中から即興的に一つ選んで対応している。  
⇒年齢や発達、その子どもについて、状況、活動に対する保育者の思いを考えて子どもの問いに答えている。

この繰り返しの関わりが、  
1年後の育ちとなって表れる。

☆保育者のちょっとした言葉へのこだわり

「どんな**もの**ができるかな」 → 制作での物  
「どんな**こと**ができるかな」 → 制作から広がる

「**先生**はこう思う」 → 先生と子ども（上下関係）  
「**私**はこう思う」 → あなたと私（対等）

- ◎保育者として言葉かけに意識を持つことが大事。
- ◎関係性が対等である。→対話につながる。

#### ○感情を共有し学び合うために →→「楽しい」を共有する。

媒体の種類や共有方法が大切

**三項関係** 人と人が一緒にものやテーマを共有する。

- ・相手の気持ち（見方・感じ方）を理解する。
- ・自分の感情を相手に伝える行動。



#### ○園内・園外研修

- ・研究保育：保育者が保育を公開し、保育後に検討会で話し合う。
- ・保育カンファレンス：保育者がある事例の問題を自分ごととして捉え、保育観ないし保育者としての姿勢を再構築する場。（エピソード記述などの文章・ビデオ・写真）

#### ○媒体との関連 →→学ばせたいことによって研修の形態を変える。

- ビデオ**
- ・三項関係が成立し、本音で語りやすい。
  - ・行動を見ながら、具体的・文脈的思考になる。
  - ・本音で語ることで、うなずきや共感がある。

※媒体を共有しながらのカンファレンス→感情を共有し、本音で語ることに繋がる。

#### ○幼児期の終わりまでに育ってほしい姿 →→資質・能力の3つの柱を示している。

「知識及び技能の基礎」 「思考力、判断力、表現力の基礎」 「学びに向かう力、人間性」

## 2. グループ討議（6グループ）

○各グループそれぞれの保育動画を視聴しながら、3つの視点について話し合う。

- ① 遊びの中でおもしろいと思った子どもの活動。
- ② 10の姿で捉えた場合、どのような学びがあるのか。
- ③ 今後どのような保育へ展開することが可能か。

動画を巻き戻したり、一時停止したりしながら語り合う。

### ★グループ報告の抜粋★

（おもしろいと思ったところ）

- ・水を繊細に移し替えたり、大胆に移し替えたりするギャップ。用具を使い方にこだわらず、目的に向かって遊んでいる。
- ・絵本を通しての三項関係。友達と同じ動きをしている。
- ・同じイメージを持ってキャンプごっこを実現させようとしている。
- ・「ネギいる？」と声をかけられてのやりとり。型ぬきができるようになってくる。
- ・裸足でバシャバシャと泥遊びをしている。手足に泥を付けて感触を楽しんでいる。川を作りたい思い。
- ・水を袋に入れ、水の中に落として水の跳ね返りを繰り返し楽しんでいる。

（今後の展開）

- ・扱いやすい道具、じっくり遊べる時間、他の子どもがしていることが目に入る設定。
- ・子どもが何に心を動かしているか、タイミングよく捉える。寄り添う。安心できる場所が大切。
- ・面白い遊びをでいあシートなどで保護者にも伝えていく。
- ・やりとりをお店屋さんに広げていく。
- ・川作りで、長いスパンで目標を達成する。
- ・袋の大きさを変える。今までの経験を通して道具を工夫する。

## 3. 総評（廣瀬聡弥氏）

○参加者の様子

- ・動画を指さしながら笑顔で語っている。
- ・「そうそう」と頷きが多く見られる。
- ・「この活動おもしろいね」と同調しながら積極的に話している。



★様々なキャリアの職員がいる中で、子どもの活動などお互いに共有することが大切。  
★乳児では10の姿で捉えにくいですが、繰り返ししていることが大事。→子どもの活動を再確認する。  
★長期的な展望を持つ。→将来的にこんなところが育っていくであろうと視点を持ちながら、今の活動を大切に。  
※研修で動画を活用→→**その中で学びを共有し、深めたり広げたりしていく！！**

### 【参加者の気づき・学び】

- ・子どもの活動を、保育者自身がおもしろいと思えることが重要であり、活動の中の学びの要素を広げることが大切である。
- ・保育者のちょっとした言葉に保育観が表れている。言葉かけのもつ重要性や責任を改めて感じた。
- ・動画を用いることで子どもの様子が共有でき、くり返し見ることで子どもの言葉にならない表情を読み取ることが出来る。園内研修等に取り入れ、子どもの見取りを深めていきたい。

作成者 幼児教育アドバイザー 吉田 里美